シリーズ第35回

笛吹市探訪

武田氏と笛吹市⑫

―武田信玄の祈願寺～慈眼寺（一宮町）―

天文22年（1553年）から永禄7年（1564年）まで5回にわたり繰り広げられた川中島の合戦。北信濃の領有をめぐり、武田・上杉（長尾）両軍が激突しました。

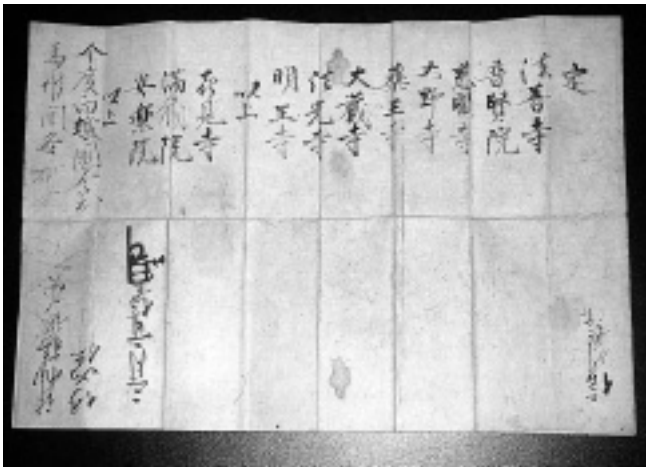
慈眼寺鐘楼門（重要文化財）

中でも、永禄4年（1561年）9月10日の第4回合戦は、戦国最大の激戦とも言われ、大河ドラマ「風林火山」のクライマックスとしても描かれています。熾烈（しれつ）な戦いにも関わらず、両者の雌雄を決することはできませんでした。

武田信玄・上杉政虎（謙信）ともに、戦いの前には神仏の加護を願い、多くの神社・寺院に戦勝祈願を依頼しています。一宮町末木にある慈眼寺（じげんじ）もそうした祈願寺の一つです。武田家の祖、武田信義によって再興されたという伝承を持つ慈眼寺に対しては、信玄の崇敬もあつく、寺領の寄進や十間四面の大規模な薬師堂の建立など、伽藍（がらん）（大きな寺・寺院の建物）を整えたと伝わっています。

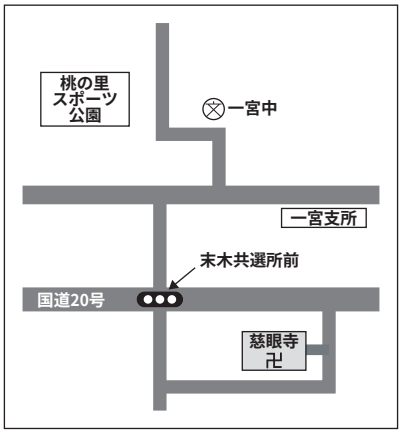
慈眼寺には、信玄が越後侵攻にあたって、甲斐国内の真言宗・天台宗の11の諸大寺に戦勝祈願を依頼した文書が残されています。

「信玄公戦勝祈願依頼廻状（かいじょう）」と呼ばれるこの文書は、長野市にあった長沼城で書かれ、真言宗の法善寺（南アルプス市）・普賢院（山梨市）・大野寺（御坂町の現福光園寺）・薬王寺（市川三郷町）・大蔵寺（石和町の現大蔵経寺）・法光寺（甲州市）・明王寺（増穂町）、天台宗の喜見寺・満蔵院・安楽院を回覧した後、慈眼寺に残されたものです。作成年は書いてありませんが、信玄が長沼城に在陣した永禄11年（1568年）のものであると推定されています。



信玄公戦勝祈願依頼廻状

永禄4年の第4回川中島合戦以後、武田氏は主に西上州（群馬県）に進出していきます。北信濃ではあまり大きな戦いはありませんでしたが、武田氏の勢力は徐々に広がり、信濃における上杉氏の勢力は北辺の飯山市周辺だけになっていました。

永禄11年のこの出兵は、上杉方の武将本庄繁長が信玄に内通していたので、その救援に向かったものです。この戦いで信玄は飯山城の攻略に成功しました。

この一連の作戦が成功したため、慈眼寺には信玄から赤地金襴（きんらん）の七条袈裟・毘沙門天像・地蔵菩薩像と水晶の数珠が寄進されています。